

ふるさと奥尻通信

令和4年3月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

旧稲穂小学校校舎を転用して開設された稲穂ふれあい研修センター。建物全体を利用して歴史民俗資料展示室を設置して18年。再建後の学校時代より倍の年月がたった。

特集 稲穂ふれあい研修センター歴史民俗資料展示室の資料紹介

稲穂ふれあい研修センターに展示されている資料をご紹介します。この度運用を開始した北海道デジタルミュージアムと連動していますので、WEB版もご利用ください。

①はヤツシロガイの貝殻です。この貝は20cmくらいにもなる大型で、水深10m～50mくらいまでの海域にいます。生息域は南北海道から西太平洋までと広く、一部では食用として出回るものです。島内では、タコ漁の時に、タコが捕食した貝を抱いて上がってくることもあるそうです。

②は縄文時代の前・中期頃の石器で、原石を擦って環(わ)のような形に造り出したものです。使用法としては、環の中に木の棒を差し込み、「環状石斧」と呼ばれる石製の斧が想定されています。特に左手のは薄刃を造り出した上に、使用後のためか欠けています。

③は同じく縄文時代の半ばに多く造られる「北海道式石冠」と呼ばれる石器で、この頃に多く繁殖していたドングリやクリなど皮の堅い果実を砕き、すり潰す時に使用したと想像されています。上部が窪んでいて、つかみやすい造りになっています。



⑦出征兵士に贈られた日の丸



⑥奥尻丸の模型

④は擦文時代後期(10～11世紀頃)の青苗遺跡で見つかった貝塚の再現状況です。驚くべきことに8割がたがアワビの殻で、他にはニホンアシカの骨、ホタテの殻などがあり、当時の島の擦文人の食生活と、鉄の製品を求めするための交易品とした島の特産物の様子がうかがえます。北方地域のアワビは干鮑(かんぼう)に加工され、本州だけではなく、海外でも珍重されたものと思われます。

⑤は奥尻町内で営業していた(現役店舗もあり)飲食店の湯飲みコレクションです。器や文字のデザインが様々あって、時代性を感じさせます。新しいのは文字が印刷なので味気ないのですが、古手の方は個性的で趣があります。かつてはお得意様に毎年配っていたものですが、最近ではほとんど見られなくなりました。

⑥は初代カーフェリーの「奥尻丸」の模型です。これは地元の方の手作りで10分の1スケールという大型のものです。非常に精巧に造られているので、窓をのぞき込むと内部にポスターが貼ってあるような作り込み様です。というのも、船に乗るたびに細かい部分を観察して作り上げていったということですので、制作日数もそうとうなものだったことでしょう。

⑦は太平洋戦争中に奥尻から出征した兵士に宛てた武運長久を願う寄せ書きです。贈られたのは谷地地区出身の平木平吉(大正11年生まれ)で、海軍に入隊後の昭和19年7月8日にマリアナ諸島にて戦死しています。鎌倉駅長らの記名があること、寄せられた氏名が島内在住者ではないことから、島を離れて関東で勤務中に召集され、その地で贈られたものと想像されます。



①ヤツシロガイ



②環状石器



③北海道式石冠



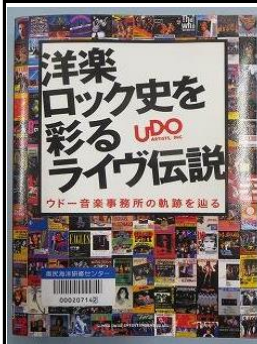
④青苗貝塚の復元



⑤島内の飲食店の湯飲茶碗



1997年10月、青苗岬の徳洋記念緑地公園内に建設中の時空翔の様子です。これは1993年の北海道南西沖地震犠牲者の慰霊碑として建設されたものです。高さ3m、幅10m、中国産の黒御影石を使い、四国の有名な石材店で加工し、現地で組み立てたものです。碑の下部に刻まれた点は波しぶきを表しています。碑の中央にはくぼみがあり、震源となった島の北西方向を向くと、地震の起きた7月12日の夕日がちょうどそのくぼみに落ちるように設計されています。作者は都市建設デザイナーの藤田久数で、総工費は約8,000万円です。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

洋楽ロック史を彩るライブ伝説
ウドー音楽事務所監修

洋楽好きなら一度は生ライブの興奮と熱狂の渦に飛び込んでみたいもの。60年代後半に設立されて現在まで数々の名バンドを日本に呼び込み、伝説となった来日公演を何度も誕生させてきたプロモーターの軌跡を詳しい年表で振り返る。懐かしいポスターやチケット、来日時のショットも満載。バンドメンバーの素顔や裏話にニヤリとさせられることしばしば。



奥尻のつり 春号



春の釣りシーズン開幕直前です。年明けの状況を見ますと、サクラマス回遊が非常に薄かったようなので、見切りをつけてエサ釣りでホッケを狙っていくのが吉でしょう。砂場でのカレイ狙い、港内に残るカジカなども手軽で面白いかと。月の後半、宮津弁天のお膝元で試しに竿を出してみたところ、小～中型のホッケが飽きない程度に30本ばかり釣れ、暗くなってからはガヤが大きなアタリを見せました。小さいながらも、キゾイやマゾイも釣れていたもので、東海岸はもう勝負開始できそうです。その他、島内の港ではヤリイカの回遊も見られ始めたようで、釣り人の動きも出てきました。シーズン開幕ですが、道具の準備は怠ること無く、無事故で春シーズンを楽しみましょう。くれぐれも釣りのゴミは置いていかないように。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第3回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号
たの掃や間なキ拭てのく繻れか母繻たおに來來をみ
。茶除つもかしいけ更だ帯たらは帯。げ、てて出をそ
碗はば、っだてれりけもが坐一を母さし貫けし覺れ
洗姉りすたけしね母だし、っ茶通さなばいれ、を
いさ痛ト。はま。さかて油て碗しんもっ藥。妹引聞
はんかッス滑っしんらい薬いはてはのてをしに出い
母にっクキりたと、やるはな拭出黙だ貫つと一かて
さしたをしに。云鍋っのつさかてっねっけ言脱ら、
んて。持を行そっやてでけいなこてしたてっ脂、私
に貫タつ滑くれておし、て。くないとら、て綿繻
しい食のっので、鉢ま一あてかた笑一姉、を帯初
て、のでてをも急をうたるともっ。わ随さ持持とめ
貫タ前、い忘、い洗、し云いた血れ分んっ油て
っ食の るれスでっそ拭、わ、。は お てて藥痛

利見くでこやが公やイさジ
についすと細ら開資ンれタ三
なけ時。が、か、す料上マル月
つらでコでい遠る館でしミ中
たれも口き地隔もが道たユ旬
もま、なる域地の所内。一より
のす気下便のので有各こジリ
で。軽で利情貴、す地れア、北
すとに出な報重家るのはム海
ねて資か仕をなに資博オが海
。も料け組知資居料物ン公道
便をにみる料なを館ラ開デ

デジタルミュージアム



リモート形式で行いました

義のて紹マとた又学北三にン度
すた学介キ靴衣民芸海名触ジ最二
るめ習さり衣服族員道のれス後月
形札しれへ彫やがを博参よクの二
式幌ま、鉄刻木使講物加う一「十
とかし実のを綿っ師館がルお六
ならた際短施のたにのあがく日
り遠。に刀し副樹迎亀り行アリし
ま隔コ身した装皮え丸まわイリ令
しに口になさ品で、由しれ又チ和
たてナつどれ、作ア紀た、文ヤ三
。講下げがた柄っイ子。十化レ年

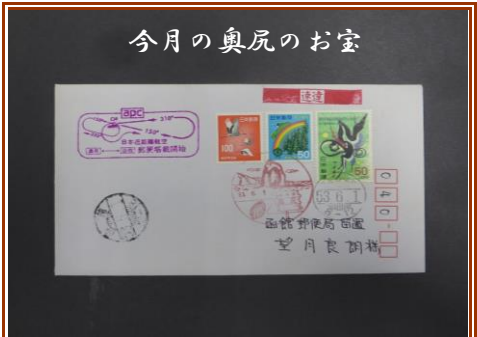
アイヌ文化に触れよう

もど的す世いな辛間震掲り
でんに。に出ついは災げま東北
しはさ伝がて出ほも追し東北
よん新てえ消い来ん二悼たの震
う行事、てえき事ど十し。震災
ねき業新一なまもん九ま職災
。すあ度たよ。去ぎ目たで。は年
よる、いう記のてで。奥尻
(の学もに憶歴いす。奥尻
釣で芸の、や史き。奥尻
り、員で後思と、時のな

新水之記録 (編集後記)

ほこがし館奥史催E訪テ分グ
しれ絶ま開尻・しCれイけれ三
いかえし館島文たOまアてし月
もらなたを津化もFし作奥プ中
ののい。学波をのFた。業尻十
で人世自芸館学でへNお内づ内
す。生の然員とぶす。コPよでつ外
。の中災が稲場。島フOびのがの
糧で害展穂と島(の研ボ二大
にすや示のしのの修ラ回学
しが紛解資て、歴が修ラ回学
て、争説料主に

奥尻を学びの場に



日本近距離航空始発便のカバー②